

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500030		
法人名	有限会社 シーシー商会		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	千葉市緑区誉田町1丁目111-1		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果市町村受理日	令和2年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年4月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設理念と共に、利用者様一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活できる環境づくりに配慮している 利用者様の健康管理を徹底し些細な変化にも迅速な対応とケアが行えるよう栄養面・心理面などにも配慮し、日々の生活を笑顔で過ごして頂けるよう環境面の充実を実践している</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して、安心と尊厳のある生活を支援します。認知症の皆様が、地域の環境になじみながら楽しみのある生活を支援します。」という理念のもと、職員が利用者本位、自立支援を大切にされた支援に努めている。また、ボランティアと様々なイベントを計画するなど、地域との連携を大切にしている。管理者は、職員の意見や要望を聞くように心がけており、その結果が職員の満足度向上、離職防止に繋がっていると思われる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが施設の理念を実践に活かし利用者様が安心して生活出来るよう支援している	「認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して、安心と尊厳のある生活を支援します。」などからなる理念は事務所と廊下に掲示する他パンフレットにも記載して、多くの人に理念が浸透するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に職員と共に参加し、地域の一員として積極的に交流している	盆踊りなど地域イベントに参加したり、合唱やギター演奏など地域のボランティアも来訪しており、地域との双方向の交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全体会議など認知症ケアについての研修を行い、地域の皆様にご理解頂けるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議で、利用者様の日常の様子や気が付いたことなどの意見をサービス向上に活かすよう努めている	運営推進会議は年4回開催され、地域包括支援センター、町内会長、民生委員などの参加がある。ホームからの状況報告をおこない、質疑応答をつうじてサービスの向上に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方に利用状況の報告し相談やアドバイスなど協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の状況を伝えてアドバイスをもらうなど、良好な協力関係を築けている。また、そのアドバイスをもとに、日々提供するサービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、施設全体で身体拘束のないケアの実践に職員が一丸となって取り組んでいる	定期的に委員会を開催するとともに、研修や虐待の芽チェックリスト実施により、ホーム全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、施設全体で虐待を見逃さないよう防止に取り組んでいる		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員で勉強会などで学び、活用し支援出来るよう取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用契約書や重要事項説明を十分に行い、利用開始の際の不安や疑問等に丁寧な説明を心がけ、ご理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様からのご意見を伺い意見交換し、職員全体で共有し改善向上に努めている	利用者の意向は、日常的な会話の中で聞くようにしている。家族からは連絡を取った時に、聞き取るようにしている。意見については、できるかぎり反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言える雰囲気や信頼関係を築けるよう気を配り働きやすい環境を心掛けている	管理者と職員とのコミュニケーションは良好で、管理者は職員の意見や要望を聞くように心がけている。その結果が職員の満足度向上、離職防止に繋がっていることがうかがえる。	今後は、年1回程度の個別面談を実施していく取り組みがあってもよいと思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境の改善やスキルアップの向上などに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育に力を入れ介護技術や知識などを身に付けられるよう出来るだけマンツーマンで指導できるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や他事業所との交流や情報交換を定期的に行いネットワーク作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントをしっかりと行い安心して過ごして頂けるよう信頼関係を築ける関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安、困っていることなど話を聞くことで安心、理解を頂き信頼関係づくりを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族の状況を把握し必要としている支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活を共有しているという姿勢を大切に、家族のような関係作りを心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションが多くなるよう働きかけ、ご家族の気持ちに寄り添えるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られたご友人などと楽しく過ごせるよう配慮に努めている	知人などの面会については歓迎しており、利用者がこれまでの関係性を継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し食事の席などの配慮や良好な関係であるよう気配りしている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築いてきた関係性を大切に相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の意向を確認しモニタリングを行っている また、言語表現が困難な利用者様には、ご家族と話し合い必要な支援を行っている	本人の希望などは、入浴時やリビングで寛いでいる時に会話の中から聞き取っている。 会話が困難な利用者は、表情や仕草から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人やご家族から生活歴を確認し、フェイスシートを作成し情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態の把握に努めている 申し送りノート(介護記録)を活用し支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題や検討が必要な時は、話し合いを行い状況に即した支援を行っている	本人の日常の様子が介護記録に詳細に記録されており、介護計画作成時に参考にしている。また、モニタリング、アセスメントを定期的におこない、介護職、計画作成担当者が話し合っており、現状に即した介護計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を残し共有している またプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟な支援、サポートに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力の下、消防訓練 ボランティアの方々による行事、運営委員会、地域行事の参加に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の生活記録に基づき、受診時は情報提供し必要時は職員も同席し医師に状況を説明し適切な医療を受けるよう心掛けている	月2回の訪問診療により、利用者の健康管理をおこなっている。専門医の受診については、訪問医と相談しながら支援している。受診時は日々の状況記録を医師に提供して、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理に努め適時適切なアドバイスを受けるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い、本人・家族が安心して治療できるよう主治医やナースとも話し合う時間を作ってもらい早期に退院出来るよう協力を努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアのあり方について研修を行うとともに、医師と連携し対応に取り組んでいる	入居契約時に、看取りをおこなわないことを説明している。状態の変化があれば、医師と相談して、現在の状況を家族や後見人に説明して、家族などの不安を軽減するように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成、訓練を定期的に行い実践時に迅速な対応が出来るように取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得て避難訓練、消火訓練、災害訓練に取り組んでいる	年2回、火災、自然災害を想定して訓練を実施し、備蓄品の更新を定期的におこなっている。訓練には、地域の民生委員、町内会長の参加もあり、地域の協力体制が構築されている。また、避難方法も分かりやすく掲示している。	様々な災害を想定したマニュアルの見直しを期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉遣いやプライバシーに配慮した対応を心掛けている	虐待の芽チェックリストを使用した伝達研修をおこなっている。また、毎日昼食後のミーティングでお互いに気づいたことを話し合い、尊厳やプライバシーが守られるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思表示を見逃さないようしっかりと傾聴し、希望が叶えられるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様との時間の共有を大切にし要望にそった支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問理容を利用したり地域行事の参加の際の身だしなみに配慮するよう心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年行事や月行事に合わせて楽しく食事を召し上がって頂けるよう工夫し取組んでいる	季節の食材を使用して、彩り、食感、盛り付けに心配りが感じられた。湯飲み、箸は個別の物を用意し、食器にも配慮して、食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し食事量や水分量などの観察に努めている また、食事形態など適切な食事提供に取組んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し口腔内の異状の観察や誤嚥性肺炎の予防にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のタイミングを把握し、その人にあつたパットとトイレの声掛けを行っている トイレ内で排泄が出来るよう取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄のタイミングを職員が共有して、声掛け、トイレ誘導をおこなっている。排泄チェック表では水分管理もおこない、自然な排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの水分摂取量に気を配り、排泄チェック表を用いて健康管理に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	一人ひとりの入浴時の確認事項を整理し、気持ちよく入浴ができるよう配慮と支援を行っている	入浴は週2回が基本であるが、個々の入浴の意向を把握して、入浴が楽しめるように支援している。好みのシャンプーや入浴剤を使用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣を尊重し安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの服薬情報に基づき、服薬時飲み込むまで確認するよう努めている また、誤薬防止にも職員全員で取り組んでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などからアセスメントプランにそいながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の中には、外出が困難な方もいるため外出可能な利用者様に対しては職員が同行し外出出来るよう支援している	初詣やお花見など、季節の外出の他、散歩や買い物など、できる限り利用者が外に出る機会をつくるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来ない利用者様が多いため事務所で保管を行っている 利用者様の希望により自ら買い物が出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて見守り支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地良く生活が送れるよう、季節に合わせた空調管理や花や絵を飾ったり明るい雰囲気作りに取り組んでいる	リビングは日当たりがよく、明るい。また、適宜換気をおこなっている。食事をするテーブルやイスの他にソファなども置いて寛げる場所をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテレビやソファを設置し利用者様が自由にくつろげる空間作りをし、見守り支援を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にテレビを設置し一人ひとりの好みに合わせレイアウトを行っており過ごしやすい環境の工夫を支援している	パンフレットにも家具や小物が自由に持ち込めることを記載している。それぞれ好きな家具や写真、絵などを持って来て、居心地よく過ごせるような環境をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具の配置等に配慮している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所